

大雨に遭い雨宿りをした高知城の追手御門。現在は追手門と呼ばれるが、『高知城を歩く』(岩崎義郎・2001年・高知新聞社)によると、始め「大御門」と呼ばれていたのが延享四年(1747年)になって「追手御門」に改められたとのこと。寅彦の当時も追手御門という呼び方が一般的だったのだろう。ただし明治29年3月の日記には「追手門」という記述があるので、あまり厳密に呼び方が決まっていた訳ではなかったのかもしれない。

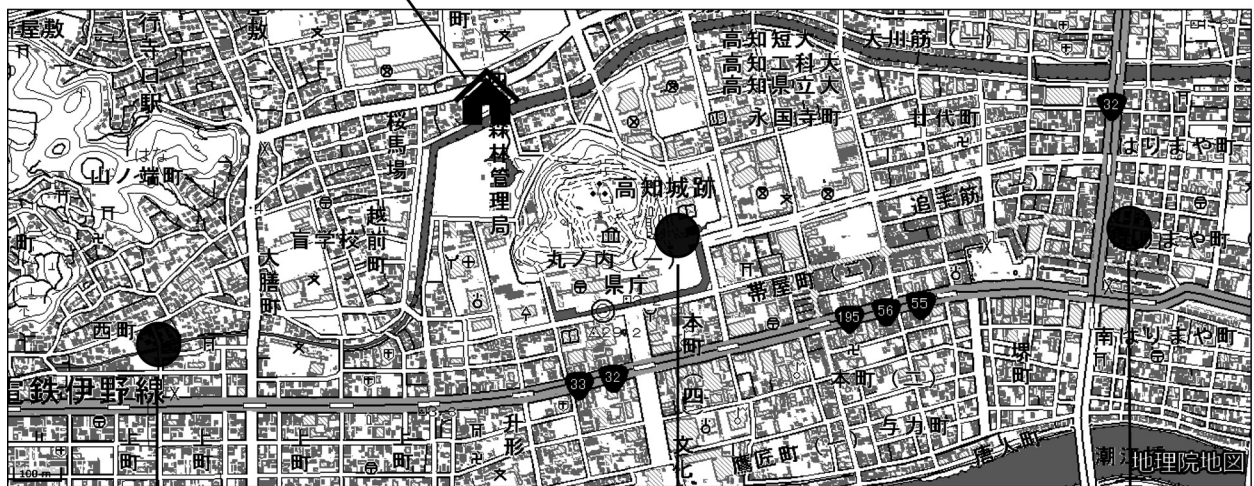


また同書によると、昭和20年7月4日の空襲のため屋根が大半焼け落ちるなどの損傷を受け、23年から26年にかけて解体修理を行ったとのことなので、現在の追手門は、この日記が書かれた当時そのままではない。それでも当時の雰囲気はよく残されているのではないだろうか。

「火を借りた菓子売りのおばさんと世間話をしながら煙草を二三服した場所はこの辺りだろうか」、などと想像してみるもの楽しい。

寺田寅彦記念館

【寅彦の見た風景マップ】



【車瀬編】

【追手御門編】

【紺屋町編】

※地理院地図(電子国土Web) (<https://maps.gsi.go.jp>) をもとに作成